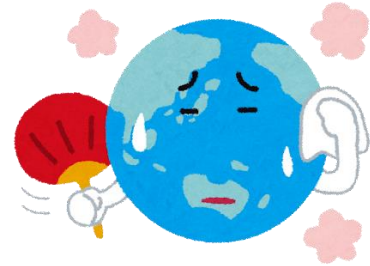


水田からのメタン発生抑制の取組

近年、大気中の二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスが原因で、地球温暖化が問題となっていることは知っている人も多いかと思いますが、水田からも温室効果ガスであるメタンが発生していることは知っていますか？

三重県では、水田からのメタン発生を抑制する取組を始めました。



～水田でのメタン発生～

水が張られた水田では、土壌が還元状態(酸素が少ない状態)になっており、その環境を好むメタン生成菌がメタンを生成します。水田の水を落として地面を乾燥させる「中干し」を行うことで、地面に生じた亀裂から酸素が入り込み、土壌を還元状態から酸化状態に近づけて、メタンの発生を抑制することができます。さらに、中干しの期間を延長することで、この効果が増します。

～三重県での取組～

令和4年産の水稻作において、水田の中干し延長による温室効果ガス(メタン)発生の抑制についての展示ほを、四日市市、鈴鹿市、伊賀市に設置しました。展示ほでは、水位センサーを活用し、中干しを含めた水田の水管理全般に



についての技術支援に

取り組みました。中干し延長に取り組むことによって、メタンの発生を抑制するだけでなく、みのりが良くなりました。今後は、このような環境にやさしい米づくりを広報することで、ひとりでも多くの生産者に取組を進めていきます。

←展示ほ(鈴鹿市)

↓ 中干しの様子



三重県では、環境にやさしい米づくりを推進していきます。

